歳旦

一新して鋒とりし年月　和光

吹ともなしに風の身に添む　可水

鳴出すべらん鉢の集りて　是可

右と左に違ふ村の名　三秋

定りの轎の酒代を譲ていふ　和

鑄り替めもまてぬ鳥はこの

新しい係に紙衣の僕臭い　、

小言聞て晴に閨の間　是

へ5
6590
87

ウ

遠き程淋しき墻笛の音　一の

押くつ揺し馬住を醉せる　和

遊ひ舟傭ふせさする堤係　ゝ

月ているんゝ上る村雲　可

剥ても茅を掻くて葺手　是

入院の近い吐し聞なり　和

宗匠と呼れて耻ぬ碁の上手　是

折紙付て華の初秋　可

立寄も有ぬ晴切ゝ月の前　和

女房の桐くす筐を帰し　是

柔和なる包燼かゝぬ乞丐（モライ）　和

四姓と云へと果はおなし　可

散る花咲満る花蕾む花　是

志賀ゝ幸崎の春ハ殊更　可

長閑なる辛夷の開らくて　秋
思ひは色に見せぬ粋すれ　石
とらなしゝ塗下駄を踏直し　是
打水ところゝてら　濤　和
建立の砌し吾宮の本遷宮　、
根もなく念て除しから几　是
暮し鉢は時節柄に秋構　石
咲て菫ても酔るれ蘭　是
下しも椎の喜の下くし　、
旧家穢(ヨゴ)れ水す残る白襖　秋
求める円鏡の珠の年を合　和
法は閑なまよ彫む石印　石
穏な世盃賑てに月の比　、
鳴なる虫の声の話しく　和

二ウ

閑人し錦する節を見よ廻り　是之
捫遂して吸ふ煙草好　和
後家も家趣の駄荷の手もな　一可
あこふの見ゆる昼の行灯　・
如在なき腸を解く従者同士　和
主捨ふく夢をし暁ふ　可
塵はけし座敷に花の喜見城　是之
狂言囃す鳥の囀　和

古四十四行
名録

鶏の觴信ス三之中の月の乱　可来
三之中月照る盃試手の庭り通　三秋
三之中月出まろし人は雲居屋な文　是之

名月

友をしまんの心浮根よ月見へし　是之

特別
へ5
6590
87